

書店システム
SUPER BOOK SHOP

■小型・低コストでレジ導入、使い勝手も向上

2019年(平成31年)1月28日(月曜日)発行

文化通信BBB

Company

出版産業の最新マーケティング情報を発信



宮脇書店尾西店

小型・低コストでレジ導入、使い勝手も向上

宮脇書店尾張西店(日興毛織(株)書籍販売事業部)

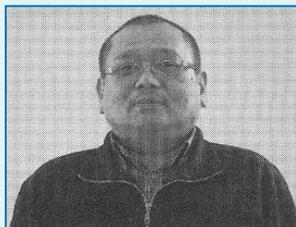
所在地: 千494-0001

愛知県一宮市開明字流58-1

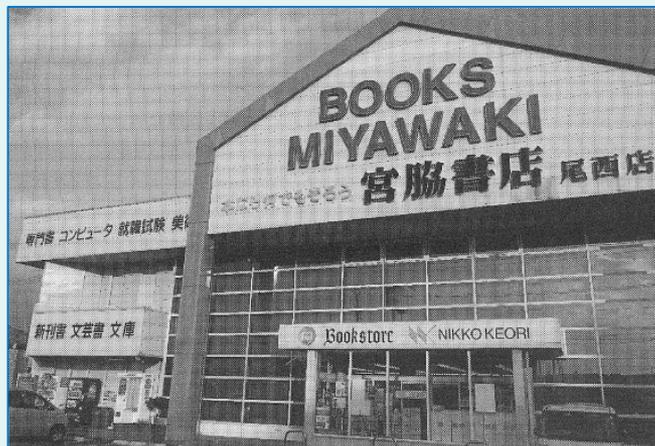
電話: 0586-47-7111

宮脇書店尾西店は2018年2月に光和コンピューター製POSレジ「KPOSmini」を導入。

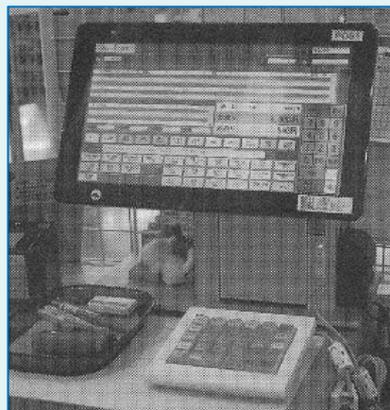
タッチパネルとテンキーの使い分けで作業性良好と評価されている。



福岡店長



レジカウンターは店内に1カ所



低価格、省スペースの「KPOSmini」

■幅広い客層の郊外店

同店は2000年に開店。2階建ての店舗は1,2階合わせて売場面積400坪。従業員数はアルバイトを含めて20人ほど。営業時間は10～23時で年中無休。西尾張中央道と呼ばれる主要幹線道に面し、道路を隔てた向かい側は住宅が多く、また近くには飲食店が多数あるという郊外型の店舗。

来店客は、平日朝から年齢の高い人、昼過ぎから夕方にかけては主婦層、夕方からは学生が多く、夜になると会社帰りの人と、時間によって変化し、客層は幅広い。学参にも力を入れているほか、本の販売だけでなく、輸入雑貨、菓子、文具の「& Deri(アンドデリ)」の展開も目を引く。

福岡満店長は開店と同時に店を運営する日興毛織(株)から赴任し、店長になってから10年ほどになるという。

23時閉店だが、すぐにはシャッターを閉めず、閉店時間ぎりぎりに入店した人の書籍検索、購入にも対応。実質は5分過ぎぐらいまでは営業しており、お客さんにとってはうれしい対応だ。

■使い勝手変わらないこと決め手に

POSレジ導入のきっかけについて、福岡店長は「シャープ製レジを使用していました。シャープが書店レジから撤退することになり、新たなレジを導入なくてはならなかったのです」と説明。

新しく導入したのは光和コンピューター製で、ディスプレイサイズ14インチの小型で低価格版の「KPOSmini」2台。

導入にあたって「取次会社関係のレジを導入することも考えましたが、シャープ製レジのソフトウェアを手掛け、以前から付き合いのあった光和コンピューターから『ハードも取り扱う』との紹介があり、同じシステムを使えることや、低価格で導入できることが決め手となりました」と福岡店長は話す。

■使いやすく改善も

もともと前に使っていたレジに光和コンピューターのシステムが使われていたこともあり「以前と同じようなシステム設計をお願いしました。より使いやすいようにジャンル分けのボタンを増やしたり、統合したりしてもらい、分かりやすく使いやすくなりました」と(福岡店長)と改善も施した。

さらに、導入当初は金額入力をタッチパネルで行う仕様だったが、少々使いづらさを感じたことや、以前のレジでテンキー入力に慣れ親しんでいたこともあり、新たにレジ専用のテンキーを導入した。

今では「タッチパネル、テンキーボードの両方を使うことができ、スタッフが使い分けることも可能で、導入当初より使い勝手がよくなりました。移行もスムーズに行われ、以前と遜色なく業務を行えています」と福岡店長は話す。